ご家族への説明資料

PICC（ピック）の挿入・留置について

末梢静脈挿入型中心静脈カテーテル（PICC／PI）を
入れる処置について、ご説明します。

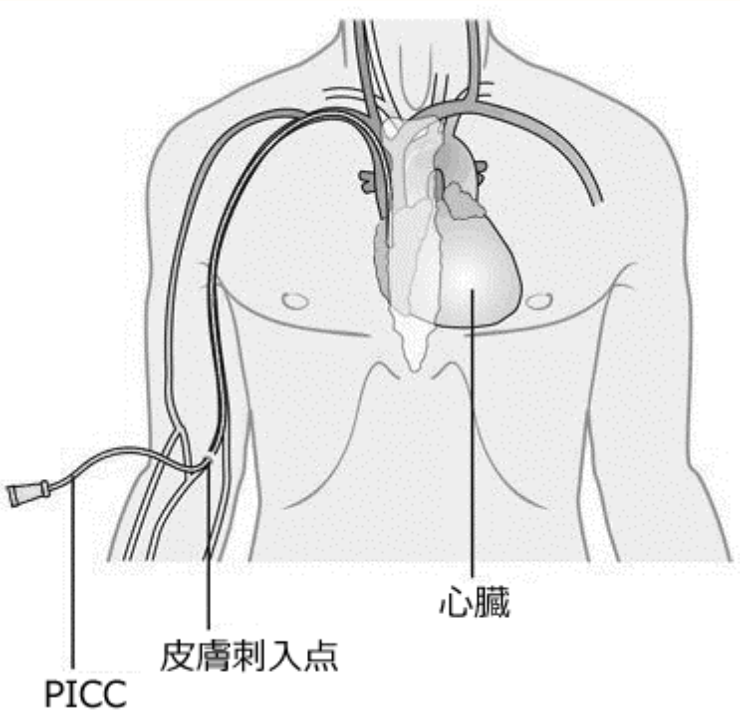
静岡県立こども病院

PICCとは

腕などの静脈から入れる、細くやわらかい管です

皮膚から静脈に入れ、管の先を心臓の手前まで進めて置いておきます（留置）。

ふつうの点滴（末梢静脈カテーテル）よりも長く使えるのが特徴です。



目的・利点

PICCを入れると、こんな良い点があります

1

長く使える

ふつうの点滴よりも、長い期間続けて使えます。

2

使えるお薬が広がる

漏れると皮膚を傷めるお薬や、濃い栄養の点滴も使えます。

3

針を刺さずに採血

管から血液を引いて、皮膚に針を刺さずに採血できます。

処置の流れ

超音波とX線で確かめながら進めます

ステップ1

静脈を確認

超音波(エコー)で静脈を確かめて針を刺します。

ステップ2

管を進める

手応えを確かめながら、管を心臓の手前まで送ります。

ステップ3

位置を確認

終わったあと、胸のX線写真で管の位置を確かめます。

ステップ4

しっかり固定

簡単に抜けないよう、皮膚に糸で縫って固定します。

処置のあいだは、心電図で心臓の動きをずっと見守っています。

鎮痛・鎮静

じっとしているのが難しいときは、お薬で眠ります

出血などを減らすためです。全身麻酔と同じモニターをつけ、すぐ対応できる準備を整えて行います。

お薬で起こりうること	そのときの対応
空気の通り道がふさがる・呼吸が弱くなる	一時的に呼吸の管を入れ、人工呼吸を行うことがあります
血圧が下がる（循環抑制）	点滴や血圧を上げるお薬で対応します
お薬のアレルギー	症状の程度に応じて、すぐに対処します

起こりうる合併症（1／2）

入れるときに起こりうること

入れにくい場合

血管の太さや通り道によっては、入れるのが難しいことがあります。

不整脈

処置中は常に心電図で見守り、起きたときはすぐに管の位置を調整します。

出血（血胸）

胸の中の静脈が傷ついて出血することがあります。血を出す管（ドレーン）や、手術での止血が必要になることもあります。

出血を防ぐため、針を刺すときは超音波で静脈を確認し、終わったあとは胸のX線で位置を確かめます。

起こりうる合併症（2／2）

入れている間・抜くときに起こりうること

管からの感染症

管を足がかりに細菌などが入り、高い熱を伴う感染症を起こすことがあります。抗菌薬で治療し、管を抜くことが多いです。

静脈血栓症

血のかたまり（血栓）で静脈がつまり、炎症や、手足の先側のむくみが出ることがあります。管を抜く必要があります。

抜けにくい

使い終わったあと管が抜けなくなり、まれに手術が必要になることがあります。

同意について

ご納得いただけたら、同意書にご署名ください

処置の内容と合併症について説明を受け、十分にご理解いただいたうえで、ご家族（代諾者）がご署名ください。

わからないことや心配なことは、どんなことでも担当医にお尋ねください。